

施策マネジメントシート

基本施策名	17 花と緑と水のある環境づくり	施策 統括課	環境政策課	氏名	清水紀明
政策名	6 環境	主な 関係課	下水道課		

1 施策の目的と指標

対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等

- ・市内全域
- ・公共用水域

施策の目的

市内外に国立の魅力を印象づける重要な地域資源として、より多くの緑を保全し、市内の貴重な水資源の水量の確保と水質の向上を目指します。

対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

	名称	単位
ア	市内面積	km ²
イ	公共用水域	km
ウ		
エ		

成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

	名称(展開方向ごとに記載)	単位
1	ア 緑が十分にあるまちであると思う市民の割合	
	イ	
2	ア 雨水浸透ますの設置数(累計)	
	イ 湧水の測定地点における環境基準の達成率	
3	ア	
	イ	
4	ア	
	イ	

2 第1次基本計画期間(平成28～令和5年度)内における取組内容

施策の展開方向	目的	手段(具体的な取組内容)
1 花と緑の確保	将来にわたって継承すべき貴重な財産として、花と緑を大切に守り育て活かします。	屋上緑化、緑のカーテン(壁面緑化)、生垣の形成を促進し、公共施設や民間建築物の敷地内及び屋上、壁面等の緑化を推進します。 青柳崖線や東京都の歴史環境保全地域である「谷保の城山」などの市内に残された貴重な緑の保全を推進します。 花と緑のまちづくり協議会の活動を促進し、花と緑を充実させていきます。 市民の身近な緑である公園を適正に維持、管理していきます。
2 水環境の保全と活用	矢川や湧水等の水環境を保全し、市民生活に精神的な安らぎや潤いを与えます。	地下浸透機能を持つ緑地等の保全や雨水浸透ますの設置を促進し、地下水のかん養に取り組みます。 地下水及び湧水の定期的な調査・監視を行い、その結果を踏まえ良好な水質を維持するために必要な対策を講じます。 市内に残された貴重な自然資源である矢川や湧水、府中用水などの水環境を市民の憩いの場や学びの場として活用します。
3		
4		

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

		単位	数値区分	27年度	28年度	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	目標達成度			
対象指標	ア	km ²	見込み値 実績値	8.15 8.15	8.15 8.15	8.15 8.15	8.15 8.15	8.15 8.15					達成・ 未達成	前年度 比較		
	イ	km	見込み値 実績値													
	ウ		見込み値 実績値													
	エ		見込み値 実績値													
成果指標	展開 方向1	ア	%	成り行き値 目標値 実績値									達成	向上		
				45.5 51.7	46.0 49.5	46.6 51.5	47.1 46.8	47.6 49.8	48.1	48.6	49.1	50.0				
		基本計画における 指標の説明又は出典元		国立市市民意識調査(緑が十分にあるまちであると思う市民の割合)												
		イ	%	成り行き値 目標値 実績値												
	基本計画における 指標の説明又は出典元															
	展開 方向2	ア	基	成り行き値 目標値 実績値									未達成	向上		
				14,300 13,989	15,200 15,032	16,100 16,118	17,100 17,117	18,100 18,063	19,175	20,250	21,325	22,400				
		基本計画における 指標の説明又は出典元		市の助成及び窓口指導によって設置された雨水浸透ますの基数(各年度末)												
		イ	%	成り行き値 目標値 実績値												
			100.0 96.0	100.0 92.0	100.0 100.0	100.0 100.0	100.0 97.0	100.0	100.0	100.0	100.0					
	基本計画における 指標の説明又は出典元		湧水の測定地点における環境基準の達成率													
	展開 方向3	ア	%	成り行き値 目標値 実績値												
			基本計画における 指標の説明又は出典元													
		イ	%	成り行き値 目標値 実績値												
			基本計画における 指標の説明又は出典元													
	展開 方向4	ア	%	成り行き値 目標値 実績値												
			基本計画における 指標の説明又は出典元													
		イ	%	成り行き値 目標値 実績値												
			基本計画における 指標の説明又は出典元													
	事務事業数				本数	15	13		9							
施策 コスト	事業 費内 訳	財源	国庫支出金	千円												
			都道府県支出金	千円		6,300	4,100									
			地方債	千円												
			その他	千円												
			一般財源	千円		187,942	186,322	15,517								
	人件 費	事業費計 (A)	千円	0	194,242	190,422	0	15,517	0	0	0	0				
		延べ業務時間	時間		17,120	16,172		321								
		人件費計 (B)	千円		65,450	60,700		1,595								
		トータルコスト(A) + (B)	千円	0	259,692	251,122	0	17,112	0	0	0	0				

4 施策の成果実績値に対する評価

(1) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上) ~ E(かなり低下)

B: 成果がどちらかと言えば向上した

(2) 他自治体との成果実績値の比較 A(かなり高い) ~ E(かなり低い)

C: 他自治体と比べてほぼ同水準である

背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)

- ・市と市民の協働により、花と緑のまちづくりの推進組織として「花と緑のまちづくり協議会」を発足させ、特に大学通り緑地帯では花壇づくりを精力的に行っている。
- ・雨水浸透ますの設置促進により、地下水の涵養が図られている。雨水浸透ます設置助成金制度の利用は無かったが、開発行為等により窓口指導での設置が多数あることにより、年々設置数は着実に伸びている。
- ・湧水の環境基準については、ママ下湧水及び青柳段丘湧水での調査結果で、全部の地点でpHは基準値内であった。

5 施策の現状 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

みどりや、身近な自然とのふれあいや安らぎ、冷涼な空気を生み出す憩いの場の提供等、市民生活にとって不可欠なものであり、また、環境保全、防災、レクリエーション、都市景観等の面でも重要な役割を担っています。一方で都市化の進行により、農地を含む市内の緑地面積は減少傾向にあります。

湧水については、冬期を中心として水量の低下がみられるため、今後も引き続き雨水浸透ますに代表される地下水の水量を確保する取組みが求められます。また、平成26年度には「雨水の利用の推進に関する法律」と「水循環基本法」の二つの法律が施行され、水資源の活用や保全などに関し、国等の責務が明らかになりました。

平成25年度に設立した「花と緑のまちづくり協議会」との協働事業は、花壇づくりや接ぎ木育苗など数多くの事業を展開しており、市民団体等の協力が不可欠となっています。

なお、地球温暖化による台風の大規模化に伴い、市内においても平成30年度の大学通りの桜の倒木、令和元年度の多摩川の逸水による河川敷公園が被災するなど、安全性の向上が求められている。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

大学通りの桜等の倒木などにより、人への事故がないよう、安心安全の確保を徹底して欲しい。

貴重な城山の景観資源を残して欲しい。

府中用水を環境型用水路として、通年通水を行うことや、崖線等の樹木の保全などの要望がある。一方で崖線等の樹木に対する近隣住民からの各種(落葉や日陰)苦情が増加している。

水田農家の減少により、用水路の維持管理が行き届かないことによる苦情が市に寄せられている。

元年度の取組状況	2年度の取組予定
・「里人会議」を開催し、同じフィールドで各種事業を展開する団体等の相互間の交流を深めた。 ・「花と緑のまちづくり協議会」とともに、数多くの事業を展開し、参加者同士のコミュニティの形成並びに花と緑のまちづくりを推進した。 ・「大学通り全体計画検討会等」を9回開催するとともに、全体計画について検討するとともに、桜の維持管理方針を策定した。 ・「くにたち緑のサポーター」については、スタンダードコースでは連続講座を開催し、新規にアドバンスコースを設定し、より深い知識等を修得に努めた。 ・崖線の保全及び安全を確保するため、一本松地域の崖線改修工事を行った。 ・崖線の維持管理方針を策定した。 ・「農の営みが残る原風景補保全するための指針」を策定し、城山公園拡張事業に必要な用地を国立市土地開発公社において先行取得した。 ・地下水かん養の為、雨水浸透ますの設置助成事業を継続して実施した。(件数:設置助成金1基及び窓口指導945基で計946基設置)	・「里人会議」を開催し、同じフィールドで各種事業を展開する団体等の相互理解を深める。また、3月初旬には里山フェスタの実施する。 ・「花と緑のまちづくり協議会」と共に、数多くの事業を展開し、参加者同士のコミュニティの形成並びに花と緑のまちづくりを進める。特に大学通り緑地帯全体計画検討会では、大学通り緑地帯のあり方に関し、桜の更新も含め、保全と利活用の両立について検討を行っていく。 ・「大学通り全体計画検討会」において、全体計画(案)について集約を目指す。また、桜の維持管理方針に沿った桜の維持管理を推進する。 ・「くにたち緑のサポーター」の連続講座を開催し、さらに多くの緑のサポーターを養成する。また、アドバンスコースを引き続き実施する。 ・崖線の維持管理方針を基本に事業を推進する。 ・城山公園拡張事業について、都市計画の変更及び都の事業認可の手続きをすすめるとともに、利活用について検討を進める。 ・地下水かん養の為、雨水浸透ますの設置助成事業及び窓口指導を継続して実施する。 ・公園長寿命化計画策定に伴い、全体把握を行うための健全度調査を行う。

6 元年度の評価結果 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等) 基本的に展開方向ごとに記載

総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績

○「花と緑の確保」を推し進めている。

- ・大学通り緑地帯の桜の維持管理に関する指針を策定し、今後の維持管理の考え方を明確化した。
- ・崖線の維持管理方針を定め、今後の青柳崖線の貴重な緑の残し方の考え方を整理した。
- ・城山公園に隣接する生産緑地の買収申出があり、営農支援と緑の保全を明確にした「農の営みが残る原風景を保全するための方針」を策定し、城山公園拡張事業を推進する中で谷保の原風景の保全に努めた。

○「水環境の保全と活用」は、地下水及び湧水の定期的な調査監視等を行う中で進捗している。

○改善余地のある事項・課題等

地権者の高齢化及び地球温暖化に伴う台風の大規模化など、崖線の樹木等を取り巻く環境は厳しさを増しており、安心安全を担保するためにも適正な維持管理が課題となっている。課題解決には定期的な剪定や更新等が必要となり、合わせて財政の確保が必要となる。また、水路についても老朽化が進み、抜本的な対応が求められている。

(2) 施策の元年度における総合評価

B	成果実績数値の評価(A～E)に、定性的要素を加味した評価 A:目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。 B:一定の成果を挙げており、向上・改善の余地がある。 C:成果向上のため、一層の努力が求められる。 D:成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。 E:現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。
---	---

7 施策の課題・今後の方向性 必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 3年度の取組方針

- ・城山公園拡張事業を通じ「里山づくり」を推進する。また、里人会議や緑のサポーターの活用を検討する。
- ・各種事業を展開する団体等の相互間の交流を深め、里山フェスタを実施する。
- ・「花と緑のまちづくり協議会」とともに、検討会を通して数多くの事業を展開し、参加者同士のコミュニティの形成並びに花と緑のまちづくりを進める。また、「くにたち緑のサポーター」の連続講座ではアドバンスコースを継続しサポーターのさらなるスキルアップを向上を図る。
- ・「大学通り全体計画」の策定に当たり、大学通り全体計画検討会での検討を行う。また、桜の維持管理フローに基づき、適正な維持管理に努めるとともに市民への周知を行う。
- ・地下水かん養の為、雨水浸透ますの設置助成事業及び窓口指導を継続して実施するとともに、地下水涵養調査結果に基づいた施策を進める。
- ・公園の長寿命化計画(案)の策定する。
- ・緑の基本計画(案)を改定を準備する。

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

・環境基本計画、緑の基本計画、公園長寿命化計画等の基本的な考え方などに基づき、市民や行政ニーズに対応する。